

放射能検定装置(α, β, γ線用)		30,000千円
示差熱分析装置一式		6,600
超速心分離装置一式		10,000
液体窒素製造装置一式		5,000
自走ボーリング装置一式		15,000
調査運搬用車輛各種(4)		5,000
電子顕微鏡大2)附属品一式	14,000 × 2 =	28,000
電子計算機(小型)		10,000
(3) 海洋調査船建造費(250t 鋼船1隻)		200,000
(4) 附属工場(金工・木工・石工・ガラス工)		30,000
(5) 図書室整備費および図書購入費		40,000
(6) 事務室整備費		10,000
(7) 講義室・会議室設備費		15,000
(8) 恒温恒湿資料室 "		10,000
(9) " 電子顕微鏡室設備費		6,000
(10) " 電子計算機室 "		6,000
(11) " X線実験室 "		15,000
(12) ボイラー室		10,000
(13) 資料倉庫設備費		5,000
		[建築費+設備費 = 426,400 + 804,100 = <u>1,230,500</u> 千円]
9. 完成後の年間経常経費	総 額	<u>130,000</u> 千円
研究部門経常経費	10,000千円 × 8 =	80,000 千円
測定施設 "		10,000
共通 " 事務費		20,000
調査船運航費		20,000
(ただし、人件費は含まない)		

7-14

庶務第1,794号 昭和41年12月15日

内閣総理大臣 佐藤栄作 殿

日本学術会議会長 朝永振一郎

(写送付先: 科学技術庁長官,
大蔵、文部両大臣)

国語・国文学研究資料センター(仮称)の設置について(勧告)

標記のことについて、本会議第47回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

記

政府は、国語・国文学の研究の重要性とその研究資料の調査・収集・保存の緊急性とにかんがみ、

研究用資料の組織的な調査・収集・保存・整理を行ない、これを学界一般に公開すると共に、研究上の情報をも提供し、内外の研究者のための共同利用機関としての機能を有する国立の国語・国文学研究資料センターを、すみやかに設置せられるよう勧告する。

なお、設置に当っては、上記の機能を達成するために必要な物的施設と必要にして十分な職員数を確保するための適切な財政措置を講ぜられたい。

また、その設置並びに運営については、それぞれの専門家による運営協議会（仮称）を設置せられたい。

緊急設置の必要な理由とその説明

1. 国語・国文学の研究が、わが国固有の言語・文学の実態を歴史的系統的に調査し、かつその言語表現を通じて国民の思想感情を科学的に把握し、民族性を明らかにするものとして、わが民族にとって重要不可欠のものであることは、今さら言うまでもない。
2. わが国における関係文献・資料は、すでに関東大震災や先般の戦災によつて多数失われている上に、近年は戦後の社会状況の激変によつて、その所有関係の移動がはなはだしく、中にはその所在の不明になるものすら生じ、あまつさえ、貴重な文献、資料であつて国外に流出するものもはなはだ多い。もつとも、その保存のためには、一部のものに対して法的、財政的措置が講ぜられているけれども、国語・国文学資料の全体に及ぶものではない。すなわちかかる現状から見ると、文献・資料の網羅的にして、かつ組織的な調査・収集・保存をはかることは、まさに急務といわなければならない。今にして、組織的に国語・国文学に関する各種文献資料を調査し、収集し、複写、複製等、然るべき保存方法を講じ、これを広く学界の利用に役立てるようにしなければ、悔いを千載に残すことになりかねないのである。
3. 今日まで、各研究機関または研究者個人が、幾多の困難を克服して個々に文献の調査収集に努力し、研究を推進して来たが、それらの収集、研究は、各研究機関、各研究者が個々別々に計画を進め、相互の組織的協同体制が不十分であつたため、収集においては組織性と網羅性を欠き、研究においてもその成果を十分にあげ得ざるうらみがあつた。従つて、国語・国文学研究の一段の発展を期するためには、組織的収集と共同利用研究体制とを確立することが急務である。
4. また近時海外における日本語及び日本文学の研究は、画期的にめざましい進展を見せ、国際日本文学研究会議の日本における開催を要望する声すら国の内外から起つている。かかる情勢から見て内外情報の相互提供が必要度を増して来たのであつて、その見地から言つても国語・国文学研究資料センターの設置整備は、極めて必要である。
5. 以上の如き諸般の情勢に対処し、それらの緊急諸要件を迅速正確に満たすための機関として、十分な機構と組織とを持つ国語・国文学研究資料センターをすみやかに設置することが急務である。

別 添

国語・国文学研究資料センターの構想

諸要求を充足するために、国語・国文学研究資料センターの事業と機構と設備とを、次のような構想のものとする。

1. 事業

- (1) 国語・国文学に関する文献，資料の所在の調査，確認，収集，整理，保存（録音，録画，マイクロフィルム等を含む）及び閲覧に供すること。
- (2) 内外の研究情報の収集，整理，公開，伝達（翻訳事業を含む。）
- (3) 国語・国文学の各種研究に資するための研究資料解題，研究論文の要約及び索引等の作成。
- (4) 以上の事業の成果を研究者のもとめに応じて複写提供等のサービスをする。
- (5) 研究年鑑，文献目録，情報資料の編集刊行，研究資料の複製，複製等。

2. 機 構

本センターの事業を十分に遂行するために，次の3部12室を置く。

- | | |
|---------------|--|
| (1) 文献資料部 | <ul style="list-style-type: none"> — 企画，収集室
国語・国文学に関する文献，資料の所在の調査，確認，収集についての企画と実施。 — 整理，保管室
収集された文献，資料の整理，保管および閲覧業務。 — 録音録画資料室
語学，文学，演劇等の研究資料として，たとえば，方言，民間芸能等の録音録画とそれの整理，保管。 — 索引室
各種研究に資するための語彙索引等の作成とその整理保管。 |
| (2) 研究情報部 | <ul style="list-style-type: none"> — 収集整理室
国内における研究情報を広く収集し，かつ整理する。 — 編集室
文献目録，研究年鑑，情報資料の編集刊行。
研究資料の解題複製，複製研究論文の要約等。 — 相談室
研究者への情報提供その他のサービスへの窓口。 |
| (3) 国際情報部 | <ul style="list-style-type: none"> — 研究情報室
国外の研究情報を収集整理するとともに，国内の研究情報を国外研究者に提供し，また国外研究者の研究上の相談に応じる。 — 翻訳室
日本文学作品または研究書等を外国語に翻訳紹介することは，年々盛んになり，最近ではユネスコでもこの種の企画があるといわれているが，かかる情勢の下にあつて，出来るだけ理想にちかい形でわが国の文学並びに研究文献が海外に紹介されることを期待するためにこの室を設け，翻訳及び翻訳についての企画・協力者の斡旋等を管掌させる。 |
| (4) 機器室 | |
| (5) 写真及び録音録画室 | |

(6) 事務室

3. 設 備

(1) 建物延坪数	6,898 m ²	2,087 坪	8,566 m ²
階段, 廊下, 便所等,	1,668 m ²	505 坪	2,592 坪
平均坪単価	140,000 円	建築費	37,288 万円
(附 帯 設 備 を 含 む)			

建物内訳

a. 文献資料部 :

部 長 室	33 m ²	10 坪
事 務 室	396 m ²	120 坪
目 録 室	132 m ²	40 坪
閱 覧 室	198 m ²	60 坪
マイクロリーダ室	33 m ²	10 坪
録音録画	} 400 m ²	120 坪
資 料 室		
資 料 整 理 室		
索引資料室	} 759 m ²	230 坪
同 事 務 室		
書 庫	2,000 m ²	606 坪
(エレコンパック)		(20万冊収容)

b. 研究情報部 :

部 長 室	33 m ²	10 坪
情報整理室	132 m ²	40 坪
編 集 室	100 m ²	30 坪
資 料 室	198 m ²	60 坪
相 談 室	66 m ²	20 坪

c. 国際情報部 :

部 長 室	33 m ²	10 坪
研究情報室	132 m ²	40 坪
情報資料室	165 m ²	50 坪
応 接 室	33 m ²	10 坪
翻 訳 室	100 m ²	30 坪

d. 事 務 室 :

センター長室	33 m ²	10 坪
事務長室	33 m ²	10 坪
事 務 室	132 m ²	40 坪

印刷室	50m ²	15坪
守衛室	33m ²	10坪
用務員室	33m ²	10坪
小会議室	66m ²	20坪
中会議室	132m ²	40坪
大會議室	198m ²	60坪
宿直室	20m ²	6坪
倉庫	198m ²	60坪
車庫	330m ²	100坪
e. 機械室	66m ²	20坪
f. 写真室	66m ²	20坪
同処理室	33m ²	10坪
g. 計算機室	400m ²	120坪
(保守要員, パンチャー室)		
h. 映写等再生室	66m ²	20坪
i. 録音録画スタジオ	66m ²	20坪
計 建坪	6898m ²	2087坪

(2) 附帯設備費 194,113,000

a. 書庫リフト } 48,000,000
エレコンバツク

b. 浄化槽 300,000

c. 電子計算機一式 125,750,000 (NEAC2200モデル300)

d. ドキュメンテーション施設 10,000,000

e. マイクロ撮影機 リコーMCAD1,570,000

自動現像機 レコダツクプロスタープロセツサーDVR型

1,250,000

フィルム複製機 東京マイクロ写真PA3

240,000

3,060,000

f. マイクロリーダー 450,000 国産品(3ヶ)プリンター付

@¥150,000

g. ゼロツクス 1,400,000 借用

h. 除温機 153,000 日立RD2005(3ヶ)

@¥51,000

i. その他

録音録面装置 5,000,000

移動撮影車, オフセット印刷器等

建物費 }
設備費 } 566,993,000円

4. 運営上の所要人員(概算)

センター長		1名			
文献資料部長		1名			
企画収集室 (36名)	室長	1名	専門員	15名	
	係員	20名			
整理保管室 (14名)	室長	1名	司書	5名	
	係員	5名	タイピスト	3名	
録音録面資料室 (12名)	室長	1名	専門員	5名	
	係員	5名	タイピスト	1名	
索引室 (21名)	室長	1名	専門員	10名	
	係員	10名			
研究情報部		1名			
整理室 (18名)	室長	1名	専門員	6名	
	係員	10名	タイピスト	1名	
編集室 (11名)	室長	1名	専門員	5名	
	係員	5名			
相談室 (6名)	室長	1名	専門員	2名	
	係員	3名			
国際情報部	長	1名			
研究情報室 (18名)	室長	1名	専門員	10名	
	係員	5名	欧文タイピスト	2名	
翻訳室 (11名)	室長	1名	専門員	5名	
	係員	5名			
事務室	事務長	1名			
庶務	係長	1名	事務官	2名	
(14名)					
			係員	1名	
	タイピスト	1名	運転手	3名	
	作業員	3名	守衛	3名	

経 理 係長	1 名	事 務 官	2 名
(5 名)			
		係 員	2 名
機械室(10名)技術員	8 名	係 員	2 名
録音録画室(5名)技術員	3 名	係 員	2 名
電子計算機要員			
(パンチャー含む)	8 名		
		計	193名

なお、一般の研究職員(部長、室長等を含む)、図書職員、技能職員、事務職員のほか、本センターは多くの機械類を設備し、貴重な資料を保管するから、とくに守衛、用務員の数を十分に確保する必要がある。

建 築	索引室	第3年次設置
設 備 } 3年計画	翻訳室	第2年次設置
	相談室	

7-15

庶発第382号 昭和42年3月24日

内閣総理大臣 佐藤栄作 殿

日本学術会議会長 朝永振一郎

(写送付先: 科学技術庁長官)
(文部大臣)

宇宙空間科学研究の一環としての宇宙生命科学研究の振興について(申入れ)
標記のことについて、本会議第305回運営審議会の議に基づき、下記のとおり申し入れます。

記

日本学術会議は、先に「宇宙空間科学研究の振興について」政府に対し、勧告(昭和36年12月6日)を致しました。同勧告は、宇宙科学に関する物理学、天体物理学、地球物理学、宇宙生物学、医学の全領域に亘る基礎的研究を含めたものであります。

その後不十分ながら、物理学、天体物理学、地球物理学方面は推進されつつありますが、宇宙医学、心理学並びに宇宙生物学の方面は全くかえりみられておりません。ここに前勧告の事後処置として今後他の分野と歩調を合わせる為にも、すみやかに、宇宙生命科学(宇宙医学、心理学並びに宇宙生物学)の研究の拡充強化を取りあげることが必要であります。

なお、宇宙生命科学の内容を示すための参考資料として、本会議宇宙空間研究特別委員会付置宇宙生命科学小委員会において検討した宇宙生命科学の拡充強化案を添付します。

宇宙生命科学の拡充強化案

1. 前 言

日本学術会議宇宙空間特別委員会生命科学小委員会は、宇宙医学心理学および宇宙生物学両分野から提案された拡充強化案を検討し、次の案をまとめた。ここに宇宙生命科学を大